

国立大学法人福島大学インフラ長寿命化計画(行動計画) 第2版
概要版

更新日:令和6年1月

■対象施設

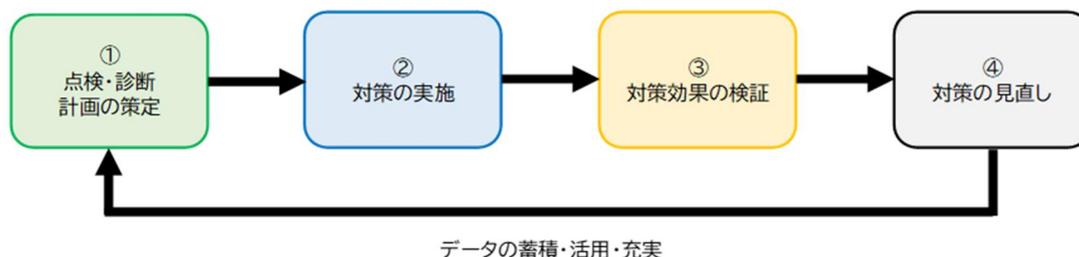
本学が所有する教育研究活動と地域・社会貢献への基盤となる建物および基幹設備(ライフライン)。

■計画期間

第4期中期目標期間(令和4年度から令和9年度まで)とし、進捗状況を毎年度フォローアップ。

■目指すべき姿

メンテナンスサイクルの構築(下図参照)。これまでの改築中心から長寿命化、事後保全から予防保全への転換を促し、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減、予算の平準化を図る。



施設メンテナンスサイクル(PDCA)

■現状と課題

大学キャンパスの金谷川団地への移転や附属学校校舎の整備により、1970~1980年代に集中整備された建物が老朽化。これまでの整備推進を継続し、停滞することなく改善していくことが大きな課題となっている。

【面積一覧表】

(単位: m²)

	築45年以上		築40~44年		築35~39年		築35年未満		合計
	改修済	要改修	改修済	要改修	改修済	要改修	改修済	要改修	
金谷川	14,436 (15%)	6,383 (7%)	14,473 (15%)	26,286 (28%)	0 (0%)	6,402 (7%)	0 (0%)	26,941 (28%)	94,921 (100%)
附属学校	2,167 (11%)	238 (1%)	1,397 (7%)	6,238 (31%)	0 (0%)	4,439 (22%)	0 (0%)	5,638 (28%)	20,117 (100%)
舟場町	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	402 (22%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1,412 (78%)	1,814 (100%)

保有施設の経年別整備状況

■前計画策定時(2016(平成28)年度)からの環境の変化

○社会の変化

2020(令和2)年度に新型コロナウイルス感染症が世界的流行となり、オンラインを活用した教育研究活動が一般化。2021(令和3)年度にロシアのウクライナ侵攻による世界情勢不安の影響から燃料費や物価が高騰。

○国の方針の変化

2021(令和3)年に策定された第5次国立大学法人等施設整備5か年計画において、大学施設は「**イノベーション・commons(共創拠点)**」へ転換するとともに、**老朽改善整備による長寿命化**への転換を最重要課題として取り組むこととされた。

○本学の変化

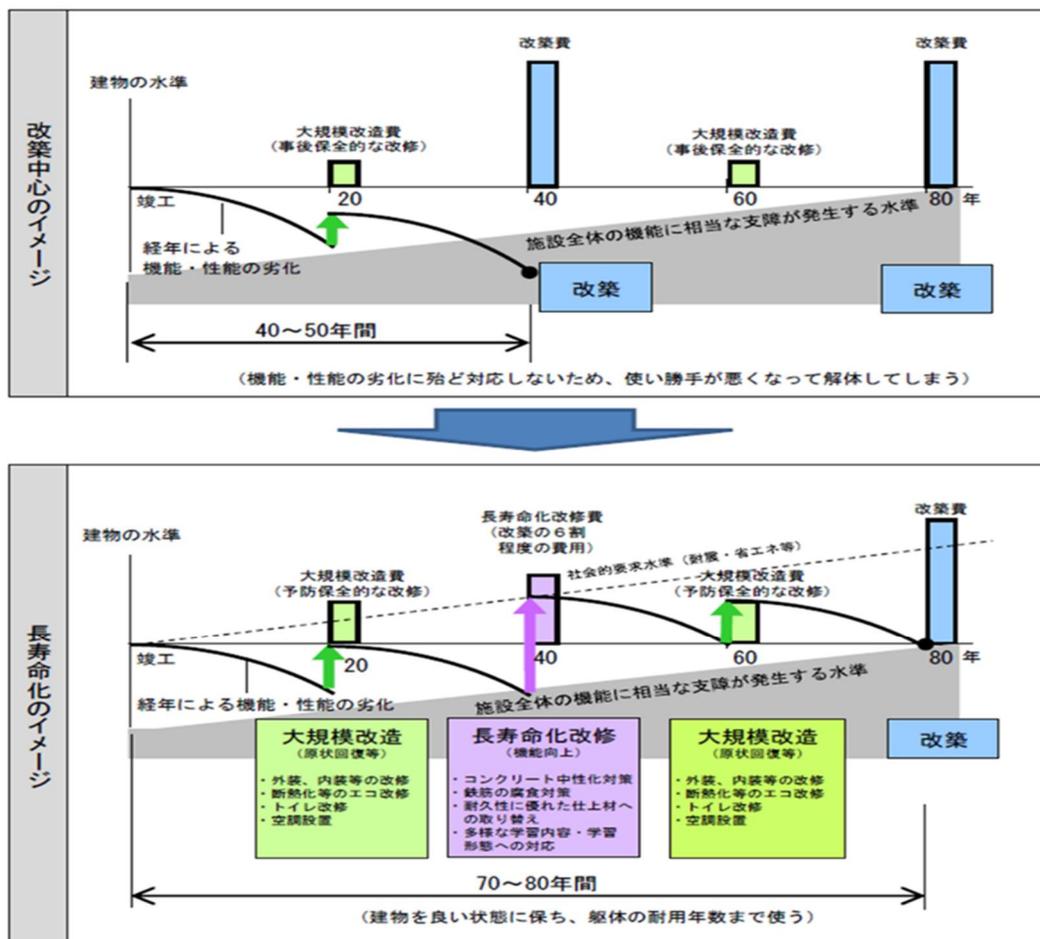
2019(平成31)年に**農学群食農学類が新設**、2023(令和5)年4月には**大学院をリニューアル**。建物も増え、上記の社会変化も相まって、キャンパスライフは大きく変化。今後の高度情報専門人材の確保に向け、情報系の入学定員増強・指導体制強化を図るなど、さらなる発展を遂げようとしている。

■取組の方向性

メンテナンスサイクルの着実な実施、**予防保全型の老朽化対策への転換**、個別施設計画の内容充実や適時の計画見直し、**公的ストックの最適化**、維持管理を含めたPPP/PFIなどの**官民連携手法の導入検討**、「**福島大学基金**」などの**多様な財源の活用**など、これら具体的な取組の推進を図る。

■中長期的なコストの見通し

個別施設計画に基づき対策費用等の必要な情報を把握し、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの見通しを精査。**従来の改築中心の考え方から転換**し、**長寿命化改修**を行うことにより**コストの平準化及び縮減**を目指す。



【出典】「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書(文部科学省)」

改築中心から長寿命化への転換イメージ